

平成 20 年度第 2 回倫理審査委員会報告

○ 目的

衛生研究所の職員が実施する調査、研究、実験及び実習等が研究対象者の人権配慮、研究内容の説明と同意等、倫理的配慮の下で適切に行われることを目的として、倫理審査委員会による審査を実施しました。

○ 開催日 平成 20 年 12 月 5 日 (金)

○ 倫理審査委員

委員長	前納 弘武	大妻女子大学社会情報学部教授
副委員長	増田 友克	衛生研究所副所長
委員	小嶋 久子	北里大学医学部准教授
委員	今井 光信	衛生研究所所長

○ 審査対象研究課題

平成 20 年度研究課題のうち、検査材（人体から採取した血液等の試料）を用いる 2 研究課題について審査を実施しました。

○ 審査項目

1. 研究によって生ずる危険性と学術上の成果の総合的判断
2. 研究対象となる個人又は検査材の提供者の人権擁護
3. 検査材の入手方法

○ 研究概要と審査結果

No.	研究概要	審査結果
6	感染性胃腸炎の原因病原体の解析に関する研究 感染性胃腸炎の発生状況の把握、診断・治療への貢献および県民への予防対策に関する情報の提供を目的とする。本研究への協力医療機関から検査材（便）の提供を受け、より正確に発生状況を把握するとともに、病原体の詳細な解析により予防対策の必要性を迅速に判断し、感染源・感染経路の究明や感染拡大の防止などを可能にすることができる。	承認
7	レジオネラ属菌のVNTR法による遺伝子解析に関する研究 レジオネラ属菌の遺伝子型別法として迅速簡便なVNTR法を導入し、レジオネラ属菌による感染事例発生時における、原因究明の迅速化を図り、拡大防止対策や再発防止対策の実施に資する。本研究では、迅速簡便なVNTR法を患者からの菌株の確保ができない場合においても検査材（喀痰）に直接VNTR法を利用することにより、迅速な感染経路・感染源の特定を可能とするための検討を行う。本研究成果は地域におけるレジオネラ症の感染拡大防止や予防対策に寄与できると考えられる。	承認